



大学IRコンソーシアム
2018～20年度学生調査
—学修行動・学修時間の分析結果—

2021年度の授業のために

2021年3月
藤女子大学IR専門部会

本学では、2018年度より一般社団法人大学IRコンソーシアム会員校となり、会員校全体で行った学生調査で、

1. 学生の学修行動や学修時間
2. 学生の能力に関する自己評価
3. 学生の満足度

を中心とした調査項目について、2018年度および2019年度の会員校との比較および本学両学部のそれぞれの特徴について学内外に公表してまいりました。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症流行により、これまでの対面授業からほぼ非対面授業を余儀なくされました。そのため、これまでの紙媒体からGoogleフォームを使ったアンケートに切り替え学生調査を行い、他大学との比較を合わせた解析を大学IRコンソーシアムに解析を委ねております。その全体の結果は2021年度中に発表する予定です。

しかし、依然新型コロナウイルス感染症が流行する中、2020年度の学修行動・学修時間についての現状を2021年度授業が始まる前に把握することが必要と判断しました。そこで、大学IRコンソーシアムアンケート項目の中で2020年度の学生の学修行動・学修時間の把握に必要な19項目に絞り、本学の2018年度、2019年度のデータと比較・分析いたしました。2021年度の学生指導の参考になれば幸いです。

学生アンケート回答率内訳1

2020年度 IRコンソーシアム 学生アンケート回答者

学科 学年	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	76	94	80.9%	105	119	88.2%	77	92	83.7%	258	305	84.6%
2年	70	100	70.0%	82	101	81.2%	87	99	87.9%	239	300	79.7%
3年	59	92	64.1%	63	82	76.8%	74	101	73.3%	196	275	71.3%
4年	76	110	69.1%	64	99	64.6%	58	101	57.4%	198	310	63.9%
学科計	281	396	71.0%	314	401	78.3%	296	393	75.3%	891	1,190	74.9%

学科 学年	人間生活学科			食物栄養学科			保育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	51	72	70.8%	62	76	81.6%	70	85	82.4%	183	233	78.5%
2年	39	58	67.2%	66	80	82.5%	50	65	76.9%	155	203	76.4%
3年	36	54	66.7%	62	85	72.9%	61	76	80.3%	159	215	74.0%
4年	35	55	63.6%	73	95	76.8%	63	83	75.9%	171	233	73.4%
学科計	161	239	67.4%	263	336	78.3%	244	309	79.0%	668	884	75.6%

※学生アンケート実施期間 2020年12月7日～12月21日

文学部 : 2020年12月1日現在在学中の学生

人間生活学部 : 2020年12月1日現在在学中の学生

(休学者及び海外及び国内協定校留学中の学生を除く。)

大学計			
学年	回答者数	対象者数	回答率
1年	441	538	82.0%
2年	394	503	78.3%
3年	355	490	72.4%
4年	369	543	68.0%
全学年	1,559	2,074	75.2%

これまでの紙媒体でのアンケートに比べても、遜色ない回答率が得られました。

学生アンケート回答率内訳2

2019年度 IRコンソーシアム 2生アンケート回答者

学科 学年	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	89	96	92.7%	91	99	91.9%	88	97	90.7%	268	292	91.8%
2年	60	83	72.3%	61	85	71.8%	71	101	70.3%	192	269	71.4%
3年	86	100	86.0%	74	93	79.6%	62	87	71.3%	222	280	79.3%
4年	69	87	79.3%	59	104	56.7%	59	92	64.1%	187	283	66.1%
学科計	304	366	83.1%	286	381	74.3%	280	377	74.3%	869	1,124	77.3%

学科 学年	人間生活学科			食物栄養学科			保育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	39	59	66.1%	76	81	93.8%	61	65	93.8%	176	205	85.9%
2年	47	54	87.0%	82	84	97.6%	73	75	97.3%	202	213	94.8%
3年	42	54	77.8%	88	98	89.8%	76	83	91.6%	206	235	87.7%
4年	50	63	79.4%	75	79	94.9%	79	89	88.8%	204	231	88.3%
学科計	178	230	77.4%	321	342	93.9%	289	312	92.6%	788	884	89.1%

※学生アンケート実施期間 2019年9月～11月

文学部 : 2019年9月25日現在在学中の学生

人間生活学部 : 2019年10月30日現在在学中の学生

(休学者及び海外及び国内協定校留学中の学生を除く。)

大学計			
学年	回答者数	対象者数	回答率
1年	444	497	89.3%
2年	394	482	81.7%
3年	428	515	83.1%
4年	391	514	76.1%
全学年	1,657	2,008	82.5%

学生アンケート回答率内訳3

2018年度 IRコンソーシアム 学生アンケート回答者

学年 \ 学科	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	85	93	91.4%	80	83	96.4%	67	107	62.6%	232	283	82.0%
2年	69	87	79.3%	85	102	83.3%	47	88	53.4%	201	277	72.6%
3年	74	80	92.5%	69	98	70.4%	55	91	60.4%	198	269	73.6%
4年	54	83	65.1%	36	85	42.4%	41	94	43.6%	131	262	50.0%
学科計	282	343	82.2%	270	368	73.4%	210	380	55.3%	762	1,091	69.8%

学年 \ 学科	人間生活学科			食物栄養学科			保育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	49	56	87.5%	80	88	90.9%	66	75	88.0%	195	219	89.0%
2年	50	55	90.9%	84	96	87.5%	78	84	92.9%	212	235	90.2%
3年	50	62	80.6%	77	81	95.1%	74	87	85.1%	201	230	87.4%
4年	51	84	60.7%	76	84	90.5%	62	78	79.5%	189	246	76.8%
学科計	200	257	77.8%	317	349	90.8%	280	324	86.4%	797	930	85.7%

※学生アンケート実施期間 2018年11月～12月

2018年10月31日現在在学中の学生(休学者及び海外及び国内協定校留学中の学生を除く。)

大学計			
学年	回答者数	対象者数	回答率
1年	427	502	85.1%
2年	413	512	80.7%
3年	399	499	80.0%
4年	320	508	63.0%
全学年	1,559	2,021	77.1%

目次:アンケート項目

1. 学習に関する経験

Q. 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたはどのくらい経験しましたか。

1. 授業課題のために図書館の資料を利用した
2. 授業課題のために Web上の情報を利用した
3. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした
4. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした
5. 教員に親近感を感じた

2. 時間の使い方

Q. あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

6. 授業や実験に出る
7. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする
8. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする
9. 部活動や同好会に参加する
10. 大学外でアルバイトや仕事をする
11. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
12. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

3. 授業での経験

Q. あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

13. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ
14. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
15. 授業の一環でボランティア活動をする
16. 学生自身が文献や資料を調べる
17. 学生が自分の考えや研究を発表する
18. 授業中に学生同士が議論をする
19. 取りたい授業を履修登録できなかった

アンケートより得られた結果を得点とみなし、
二元配置分散分析を使用して以下の検討を行った。

- ・ 学部による違い（文学部、人間生活学部）
- ・ 調査年度による違い（2018年度、2019年度、2020年度）

主効果が有意だった場合は、多重比較（Bonferroni）によって
ペアごとの差を求めた。

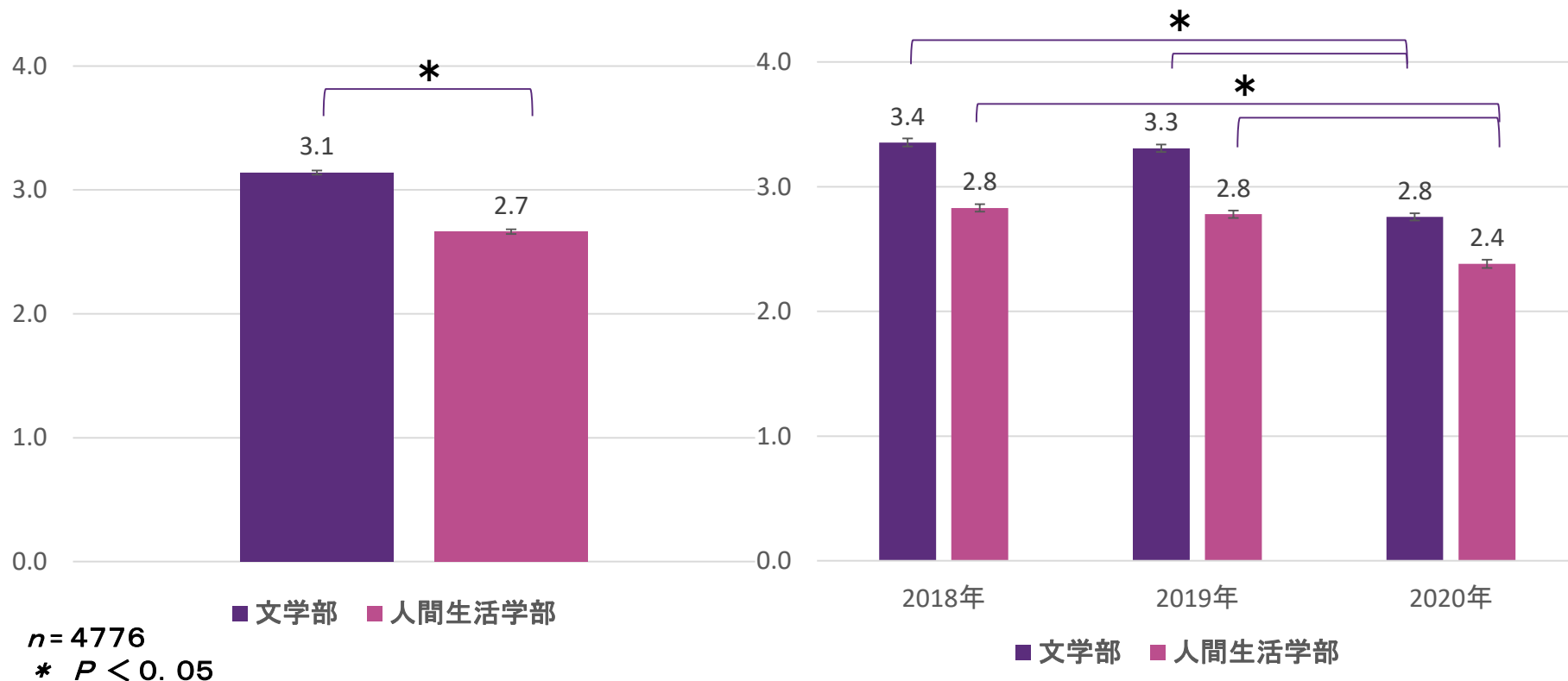
また、交互作用効果が有意だった場合、単純主効果を検討した。

得られた数値は、平均値±標準誤差として図に示した。

1. 学習に関する経験

1. 授業課題のために図書館の資料を利用した

4 : ひんぱんにした 3 : ときどきした 2 : あまりしなかった 1 : まったくしなかった

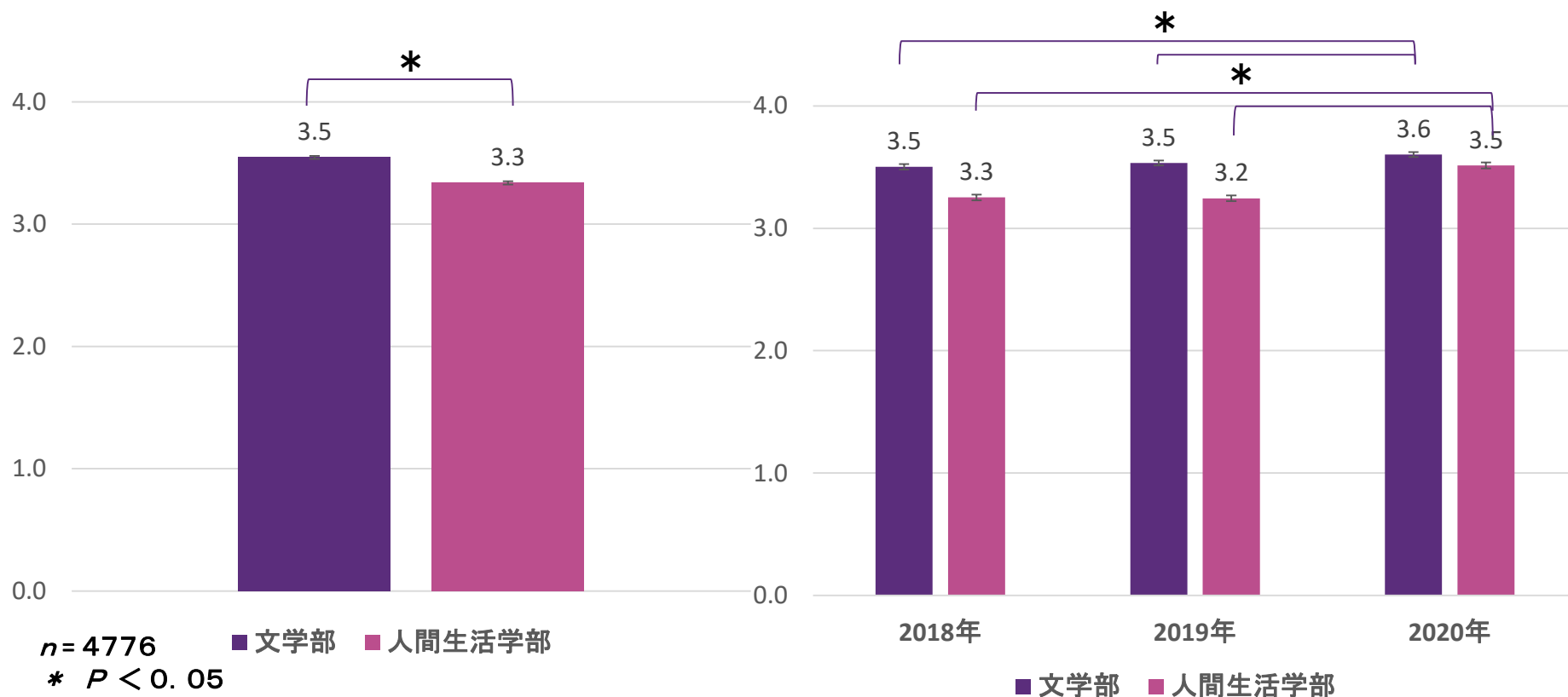


図書館の資料を利用する機会は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。
両学部とも、2020年は図書館の資料を利用する機会が他の年度に比べ減少した。

1. 学習に関する経験

2. 授業課題のために Web上の情報を利用した

4 : ひんぱんにした 3 : ときどきした 2 : あまりしなかった 1 : まったくしなかった

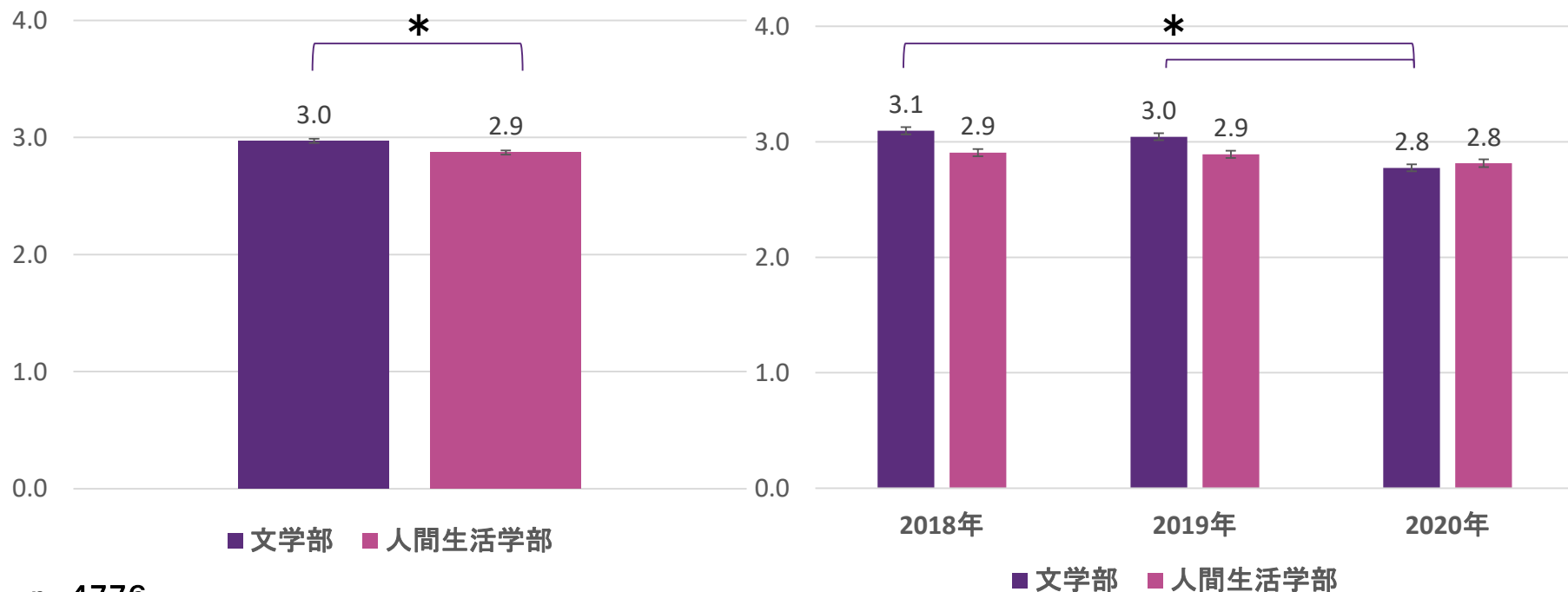


Webの情報を利用する機会は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。
両学部とも、2020年はWebの情報を利用する機会が他の年度に比べ増加した。

1. 学習に関する経験

3. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

4 : ひんぱんにした 3 : ときどきした 2 : あまりしなかった 1 : まったくしなかった



n = 4776

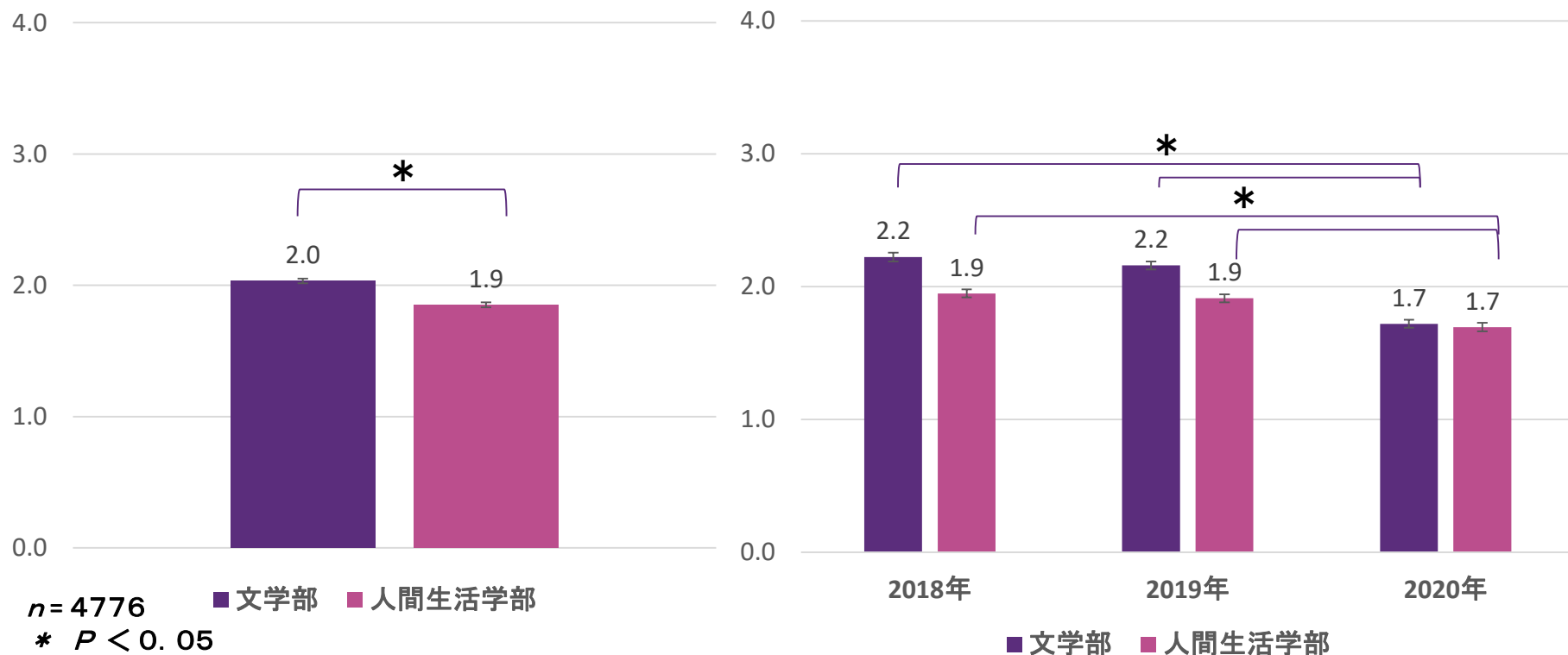
* $P < 0.05$

授業時間外に他の学生と勉強する等の機会は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。文学部では、2020年はその機会が他の年度に比べ減少した。人間生活学部では有意差は認められなかったが、全体として2020年は他の学生と一緒に勉強する等の機会が減少した。

1. 学習に関する経験

4. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした

4 : ひんぱんにした 3 : ときどきした 2 : あまりしなかった 1 : まったくしなかった

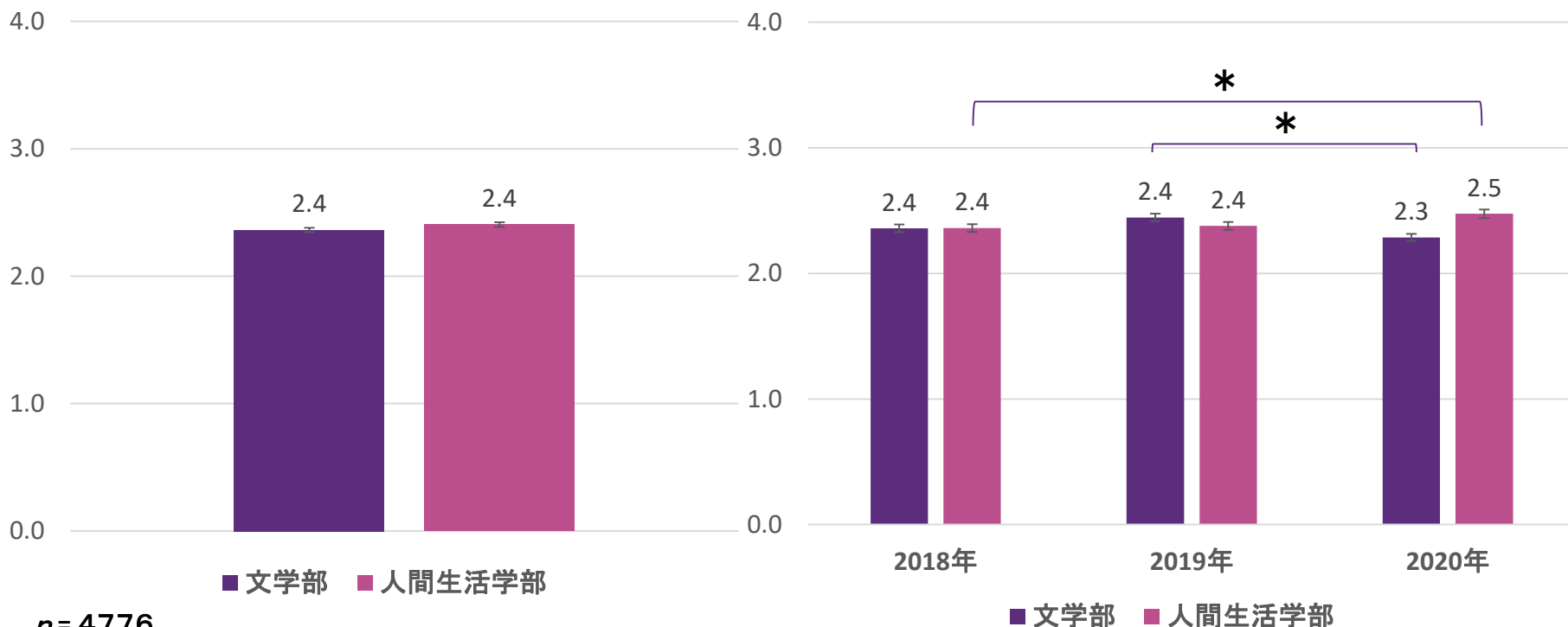


教職員に学習に関する相談をする等の機会は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。両学部とも、2020年はその機会が他の年度に比べ減少した。

1. 学習に関する経験

5. 教員に親近感を感じた

4 : ひんぱんにした 3 : ときどきした 2 : あまりしなかった 1 : まったくしなかった



n = 4776

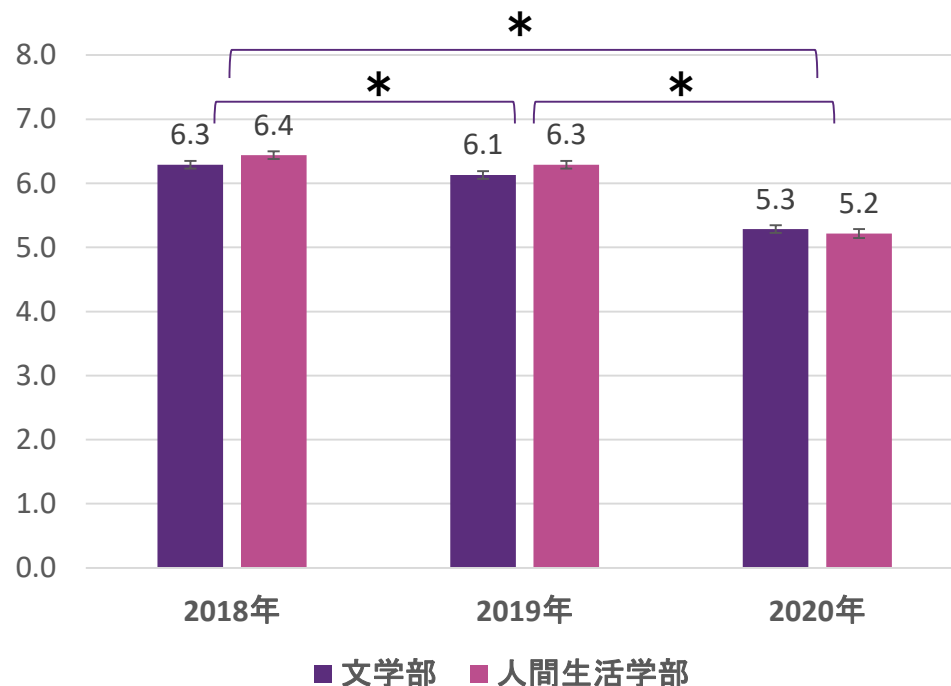
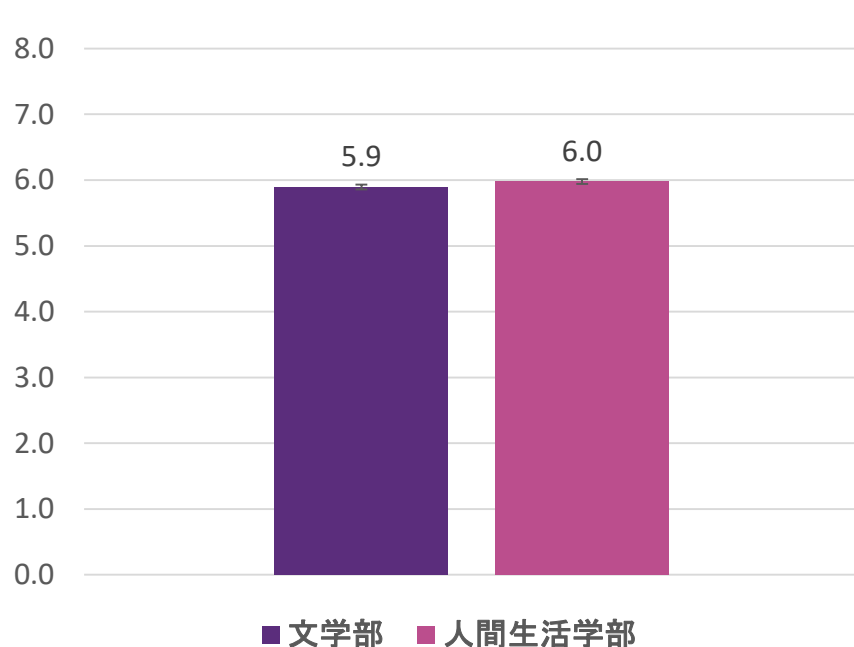
* $P < 0.05$

教員に親近感を感じたという項目では、両学部間での違いは認められなかった。
文学部は、2019年と比較し20年で減少した。
人間生活学部では、2018年と比較し20年で増加した。

2. 時間の使い方

6. 授業や実験に出る

- 1 : 全然ない 2 : 1時間未満 3 : 1~2時間 4 : 3~5時間
5 : 6~10時間 6 : 11~15時間 7 : 16~20時間 8 : 20時間以上



n = 4776

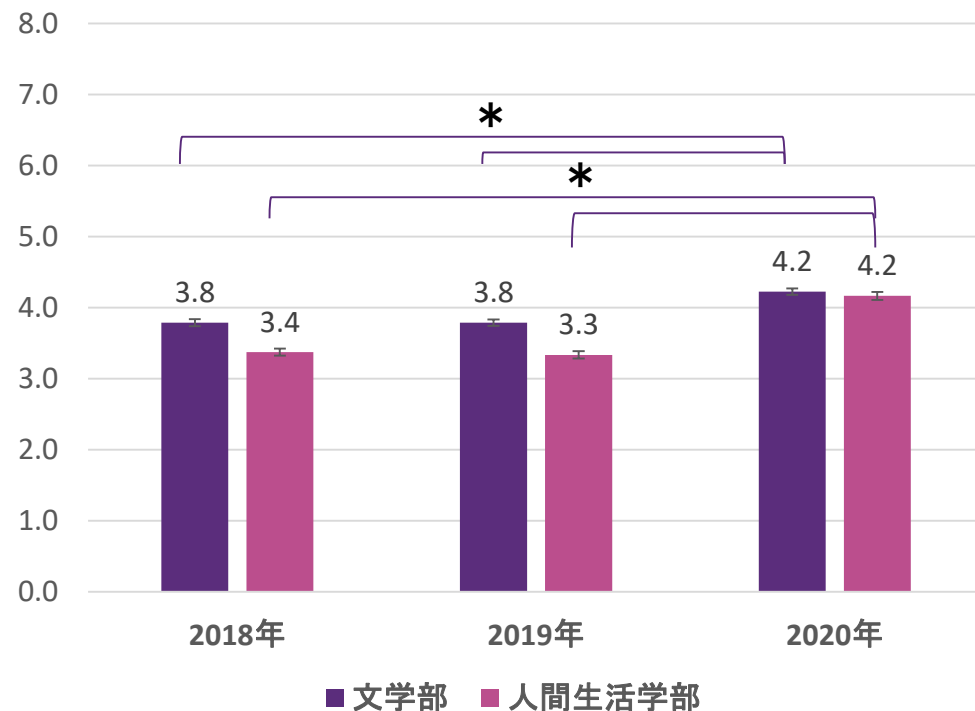
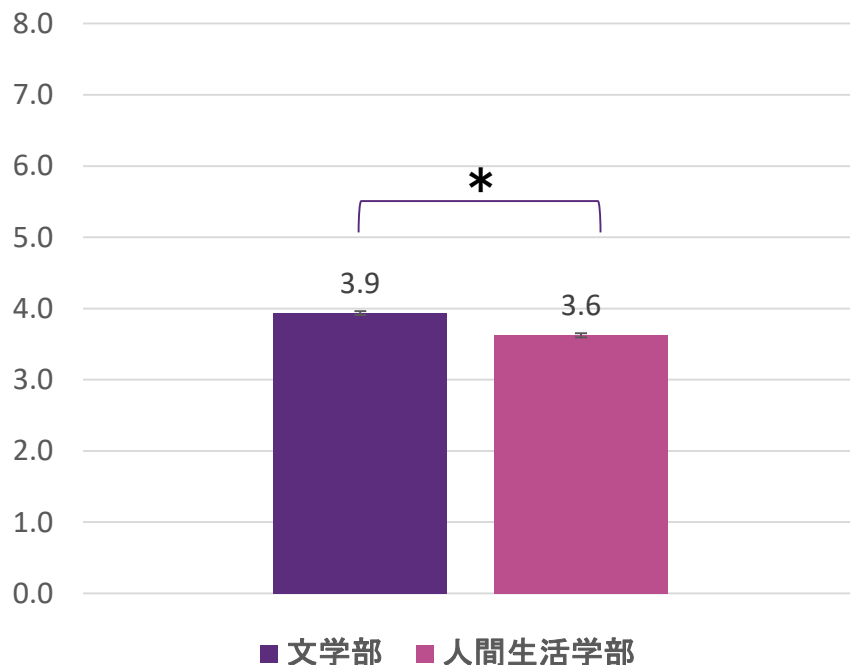
* $P < 0.05$

授業や実験に出る時間に関して、両学部間での違いは認められなかった。各学部では年度別の違いは認められなかったが、全体的には2018年と比較し19年で時間数が減少した。また、2018年、19年に比べ20年での時間数が減少した。

2. 時間の使い方

7. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする

1 : 全然ない 2 : 1時間未満 3 : 1~2時間 4 : 3~5時間
5 : 6~10時間 6 : 11~15時間 7 : 16~20時間 8 : 20時間以上



n = 4776

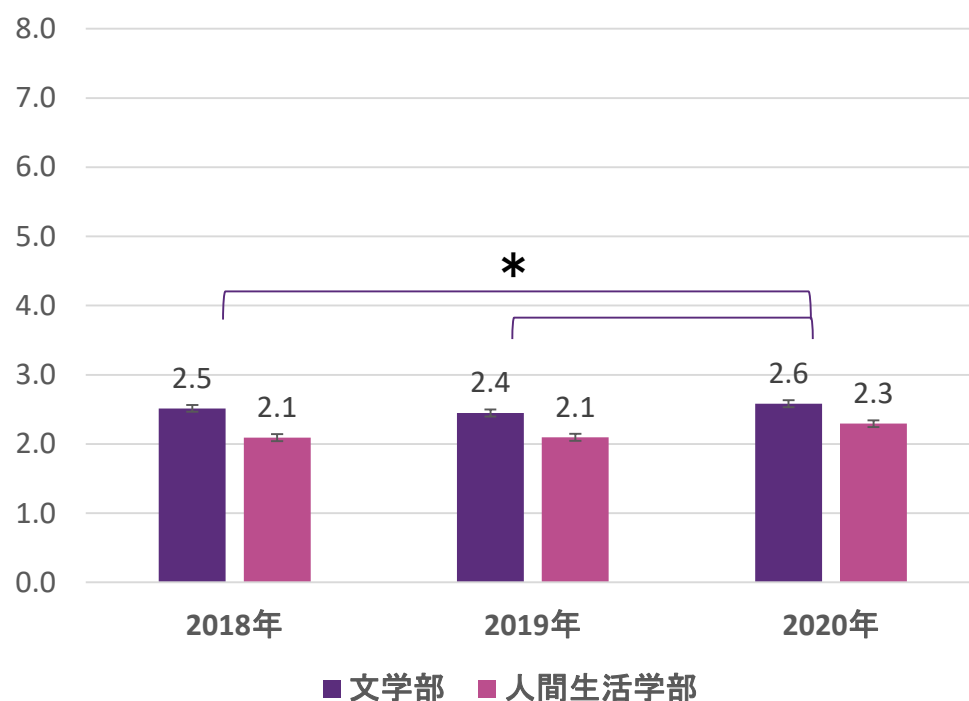
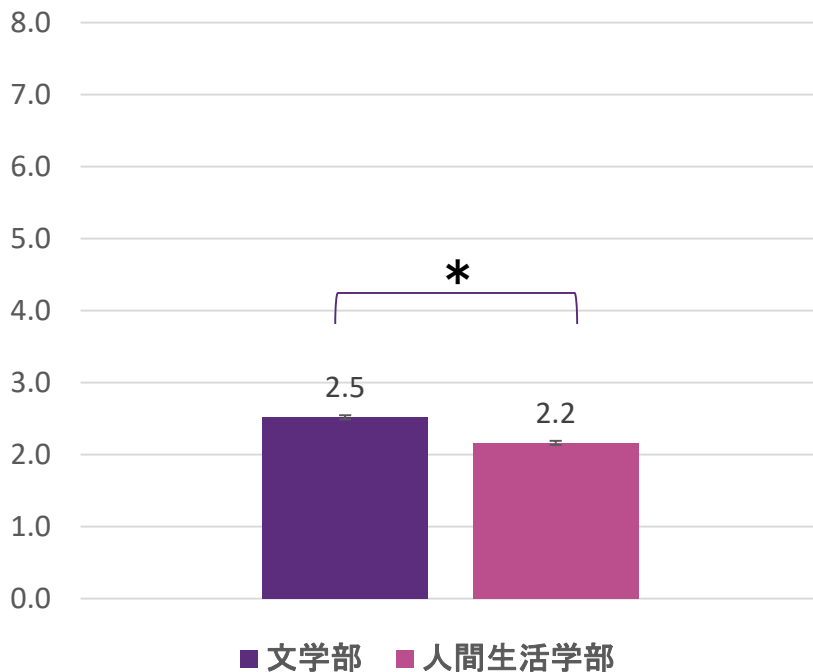
* $P < 0.05$

授業準備や復習をする時間は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。両学部ともに、2018年、19年と比較し20年では時間数が増加した。

2. 時間の使い方

8. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする

1 : 全然ない 2 : 1時間未満 3 : 1~2時間 4 : 3~5時間
5 : 6~10時間 6 : 11~15時間 7 : 16~20時間 8 : 20時間以上



n = 4776

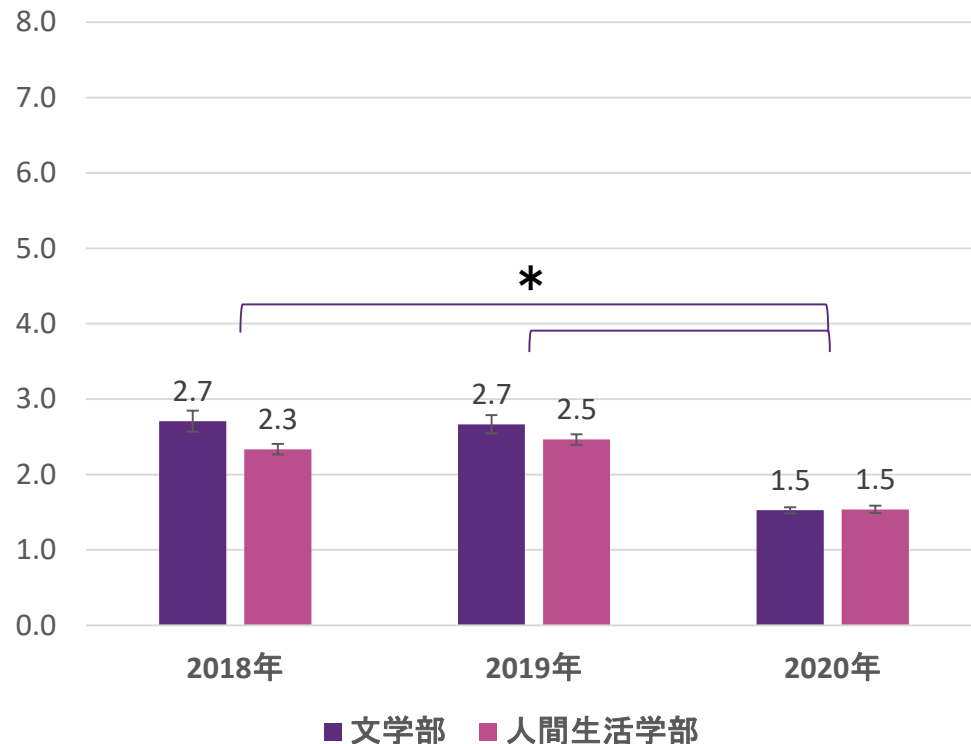
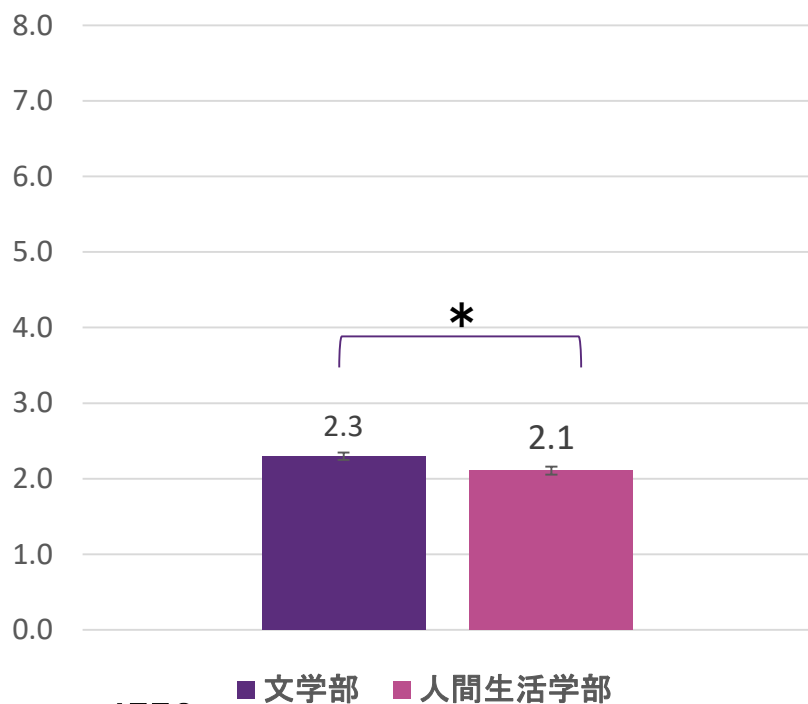
* $P < 0.05$

授業に関連しない勉強をする時間は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。各学部では年度別の違いは認められなかったが、全体的には2018年、19年と比較し20年では時間数が増加した。

2. 時間の使い方

9. 部活動や同好会に参加する

1 : 全然ない 2 : 1時間未満 3 : 1~2時間 4 : 3~5時間
5 : 6~10時間 6 : 11~15時間 7 : 16~20時間 8 : 20時間以上



n = 4776

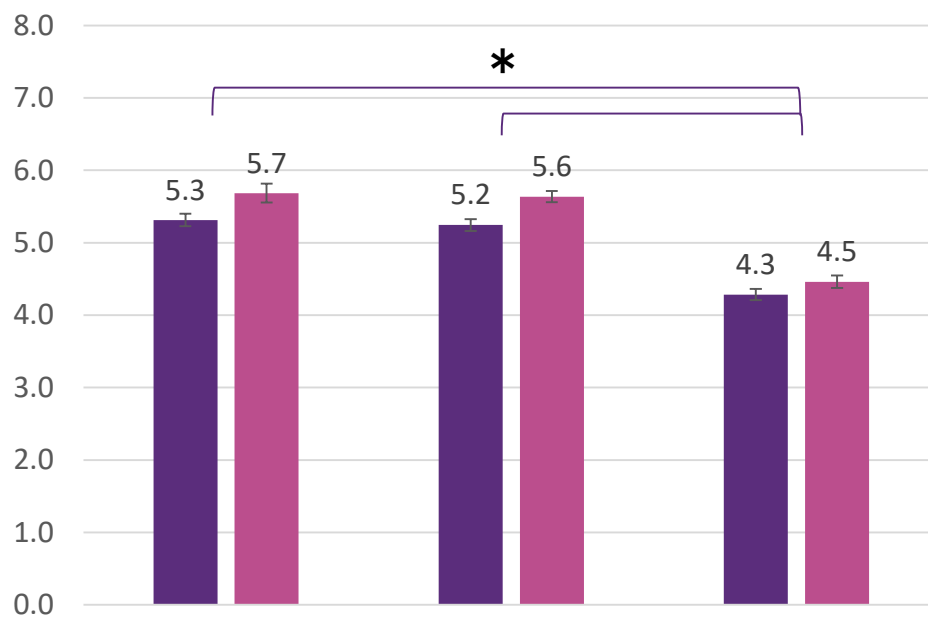
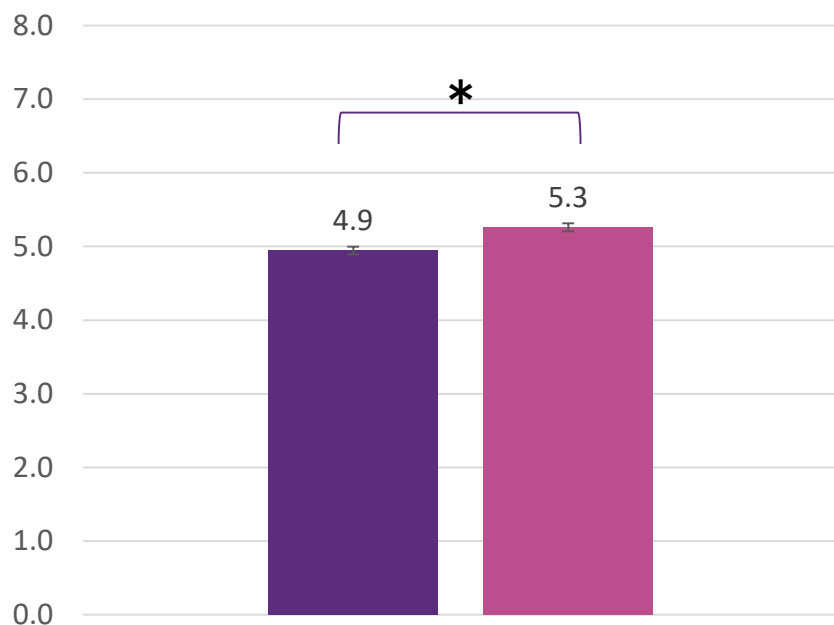
* $P < 0.05$

部活動等に参加する時間は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。各学部では年度別の違いは認められなかったが、全体的には2018年、19年と比較し20年では部活動等に参加する時間は減少した。

2. 時間の使い方

10. 大学外でアルバイトや仕事をする

1 : 全然ない 2 : 1時間未満 3 : 1~2時間 4 : 3~5時間
5 : 6~10時間 6 : 11~15時間 7 : 16~20時間 8 : 20時間以上



n = 4776

■ 文学部 ■ 人間生活学部

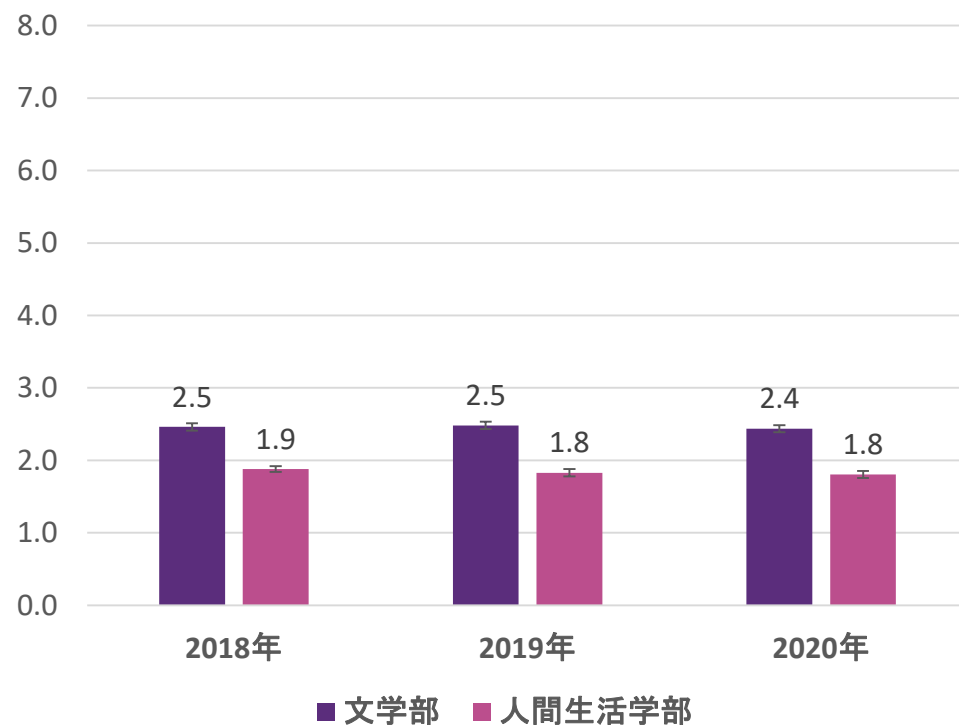
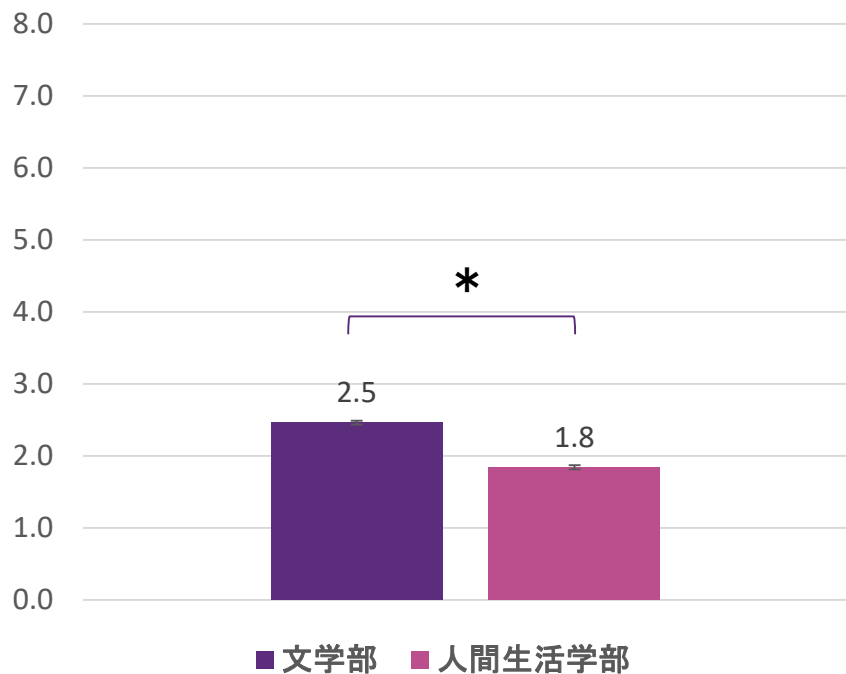
* $P < 0.05$

アルバイトや仕事をする時間は、人間生活学部のほうが文学部より多かった。各学部では年度別の違いは認められなかったが、全体的には2018年、19年と比較し20年ではアルバイトや仕事をする時間は減少した。

2. 時間の使い方

11. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

1 : 全然ない 2 : 1時間未満 3 : 1～2時間 4 : 3～5時間
5 : 6～10時間 6 : 11～15時間 7 : 16～20時間 8 : 20時間以上



n = 4776

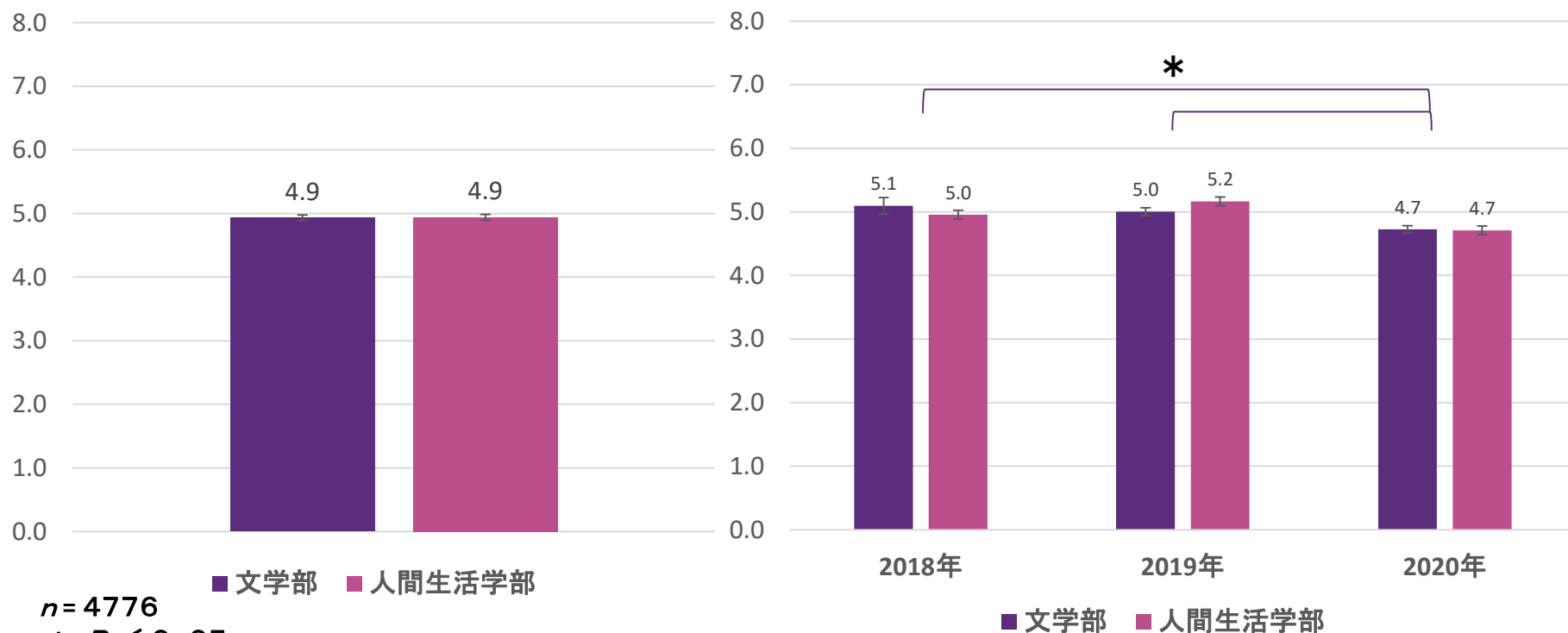
* $P < 0.05$

読書をする時間は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。
年度別の違いは認められなかった。

2. 時間の使い方

12. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

1 : 全然ない 2 : 1時間未満 3 : 1～2時間 4 : 3～5時間
5 : 6～10時間 6 : 11～15時間 7 : 16～20時間 8 : 20時間以上



n = 4776

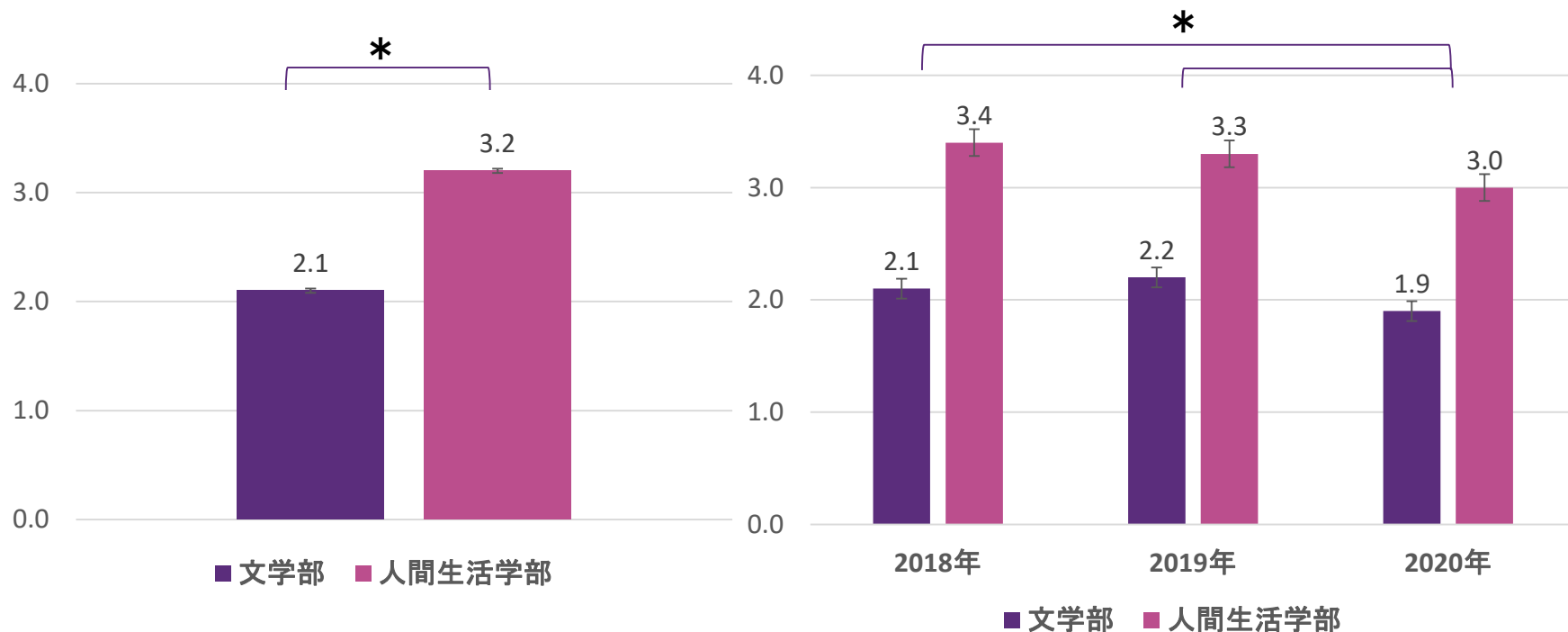
* $P < 0.05$

個人的な趣味活動をする時間は、学部間での違いは認められなかった。年度別の違いは、各学部では認められなかったが、全体的には2018年、19年と比較し20年では趣味活動をする時間は減少した。

3. 授業での経験

13. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

4 : ひんぱんにあった 3 : ときどきあった 2 : あまりなかった 1 : まったくなかった



n = 4776

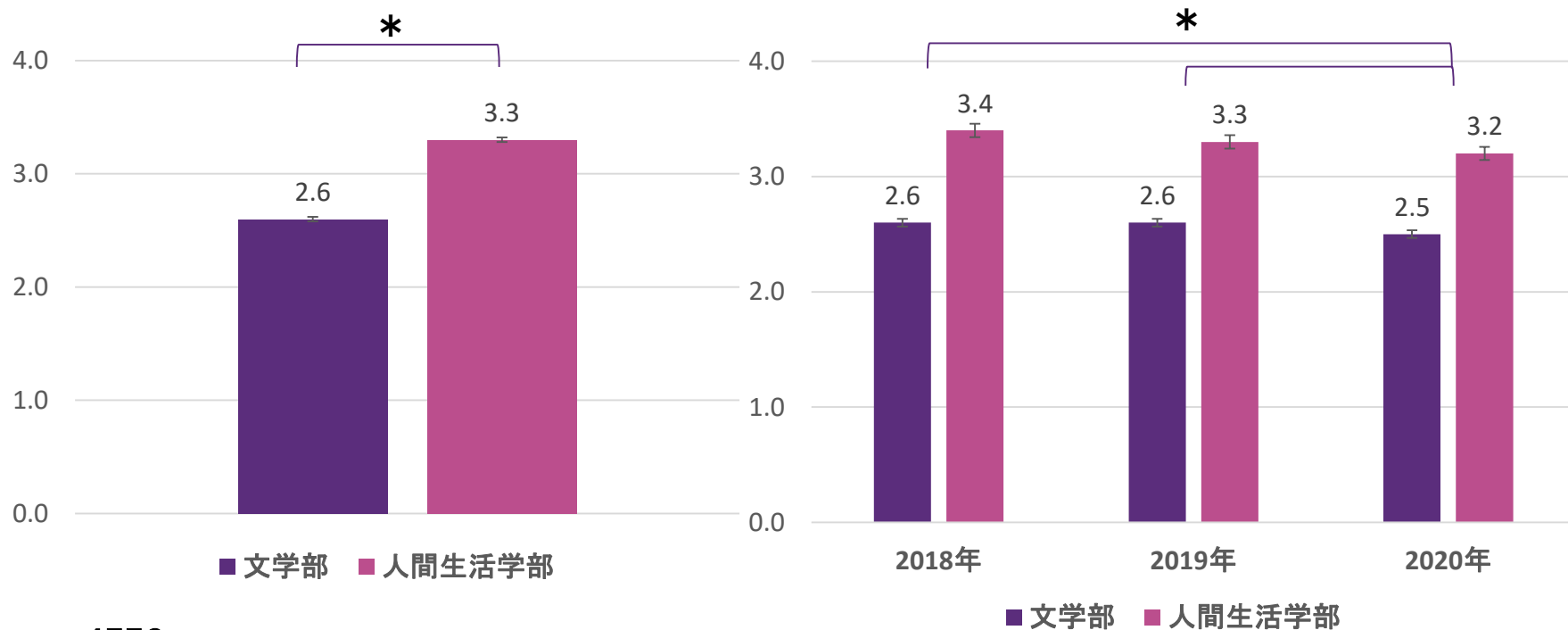
* $P < 0.05$

実験、実習、フィールドワークなどを実施し学生が体験的に学ぶ機会は、人間生活学部のほうが文学部より多かった。各学部では年度別の違いは認められなかったが、全体的には、2018年、19年より20年で体験的に学ぶ機会が減少した。

3. 授業での経験

14. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

4 : ひんぱんにあった 3 : ときどきあった 2 : あまりなかった 1 : まったくなかった



n = 4776

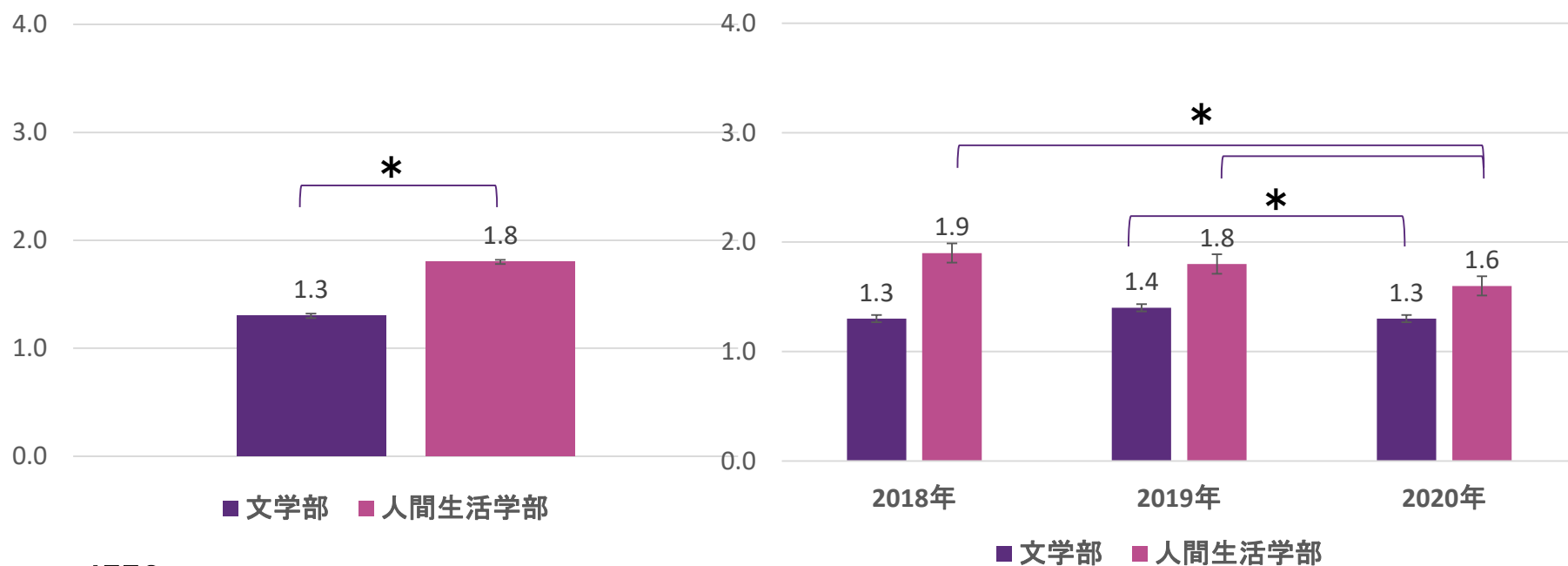
* $P < 0.05$

仕事に役立つ知識やスキルを学べると考えている学生は、人間生活学部のほうが文学部より多かった。各学部では年度別の違いは認められなかったが、全体的には、2018年、19年より20年でスキルを学ぶ機会が減少した。

3. 授業での経験

15. 授業の一環でボランティア活動をする

4 : ひんぱんにあった 3 : ときどきあった 2 : あまりなかった 1 : まったくなかった



n = 4776

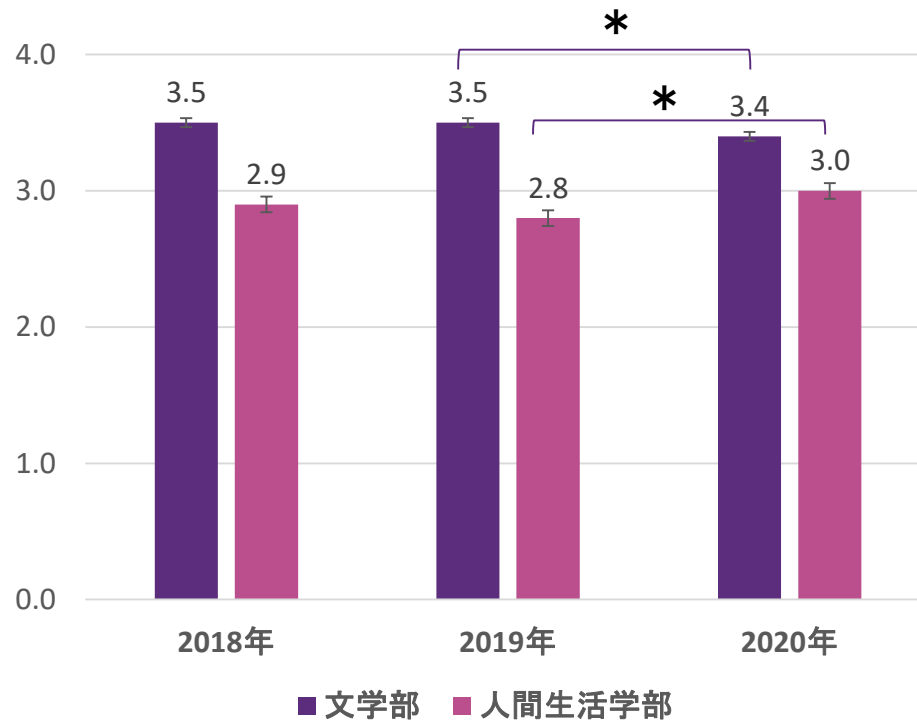
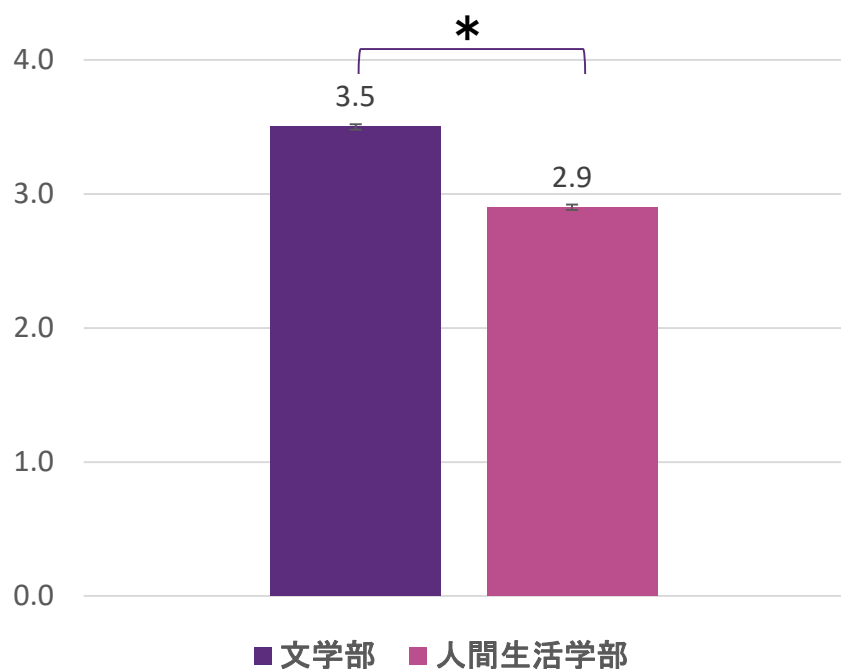
* $P < 0.05$

ボランティア活動をする機会は、人間生活学部のほうが文学部より多かった。
年度別では文学部では2019年と比べ20年で減少した。
人間生活学部では2018年、19年と比べ20年で減少した。

3. 授業での経験

16. 学生自身が文献や資料を調べる

4 : ひんばんにあった 3 : ときどきあった 2 : あまりなかった 1 : まったくなかった



$n = 4776$

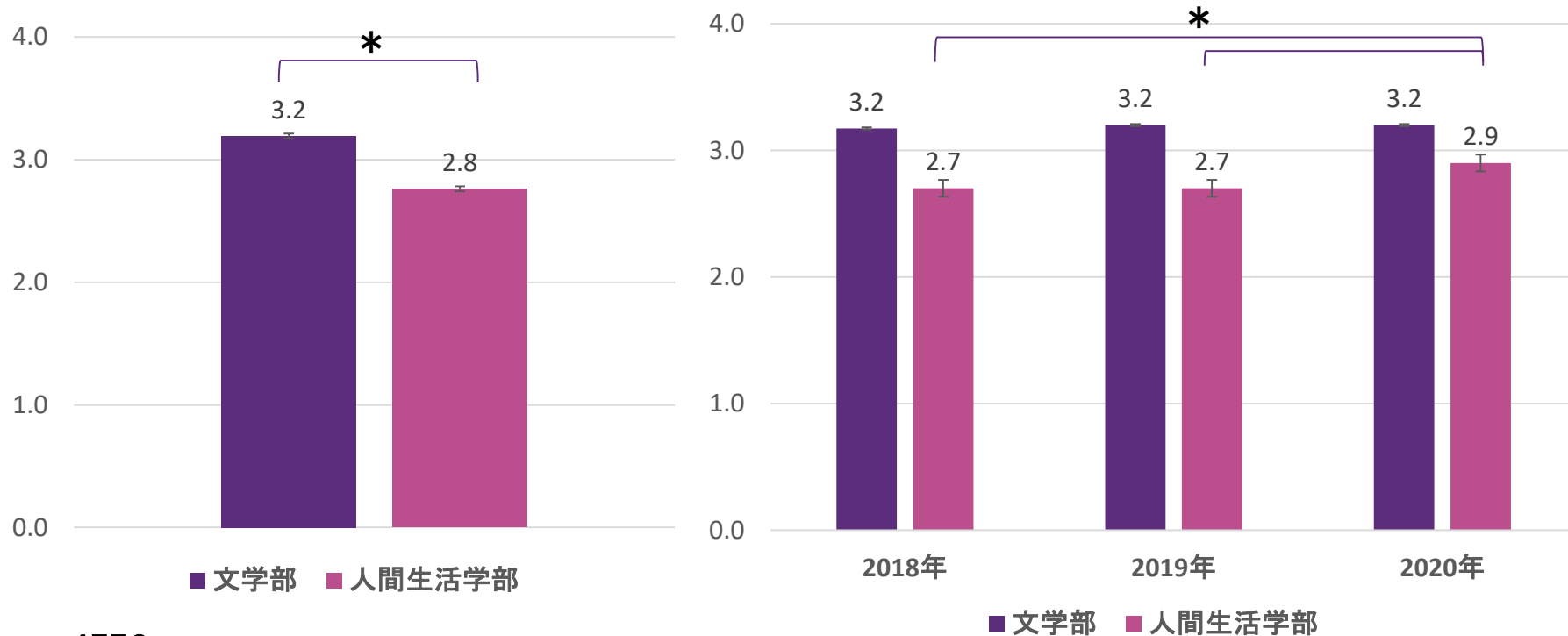
* $P < 0.05$

文献や資料を調べる機会は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。
年度別では2019年と比べ20年で文学部では減少し、人間生活学部では増加した。

3. 授業での経験

17. 学生が自分の考えや研究を発表する

4 : ひんばんにあった 3 : ときどきあった 2 : あまりなかった 1 : まったくなかった



n = 4776

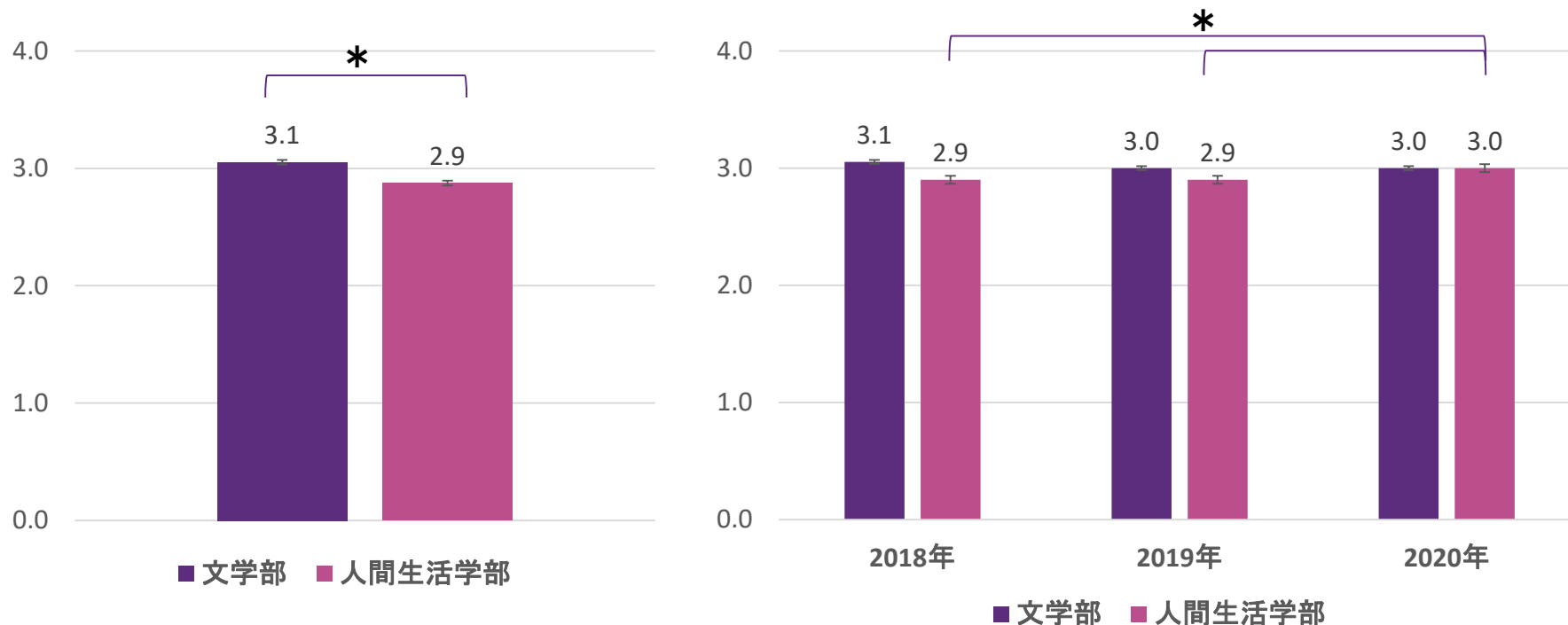
* $P < 0.05$

自分の考えや研究を発表する機会は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。年度別では人間生活学部で、2018年、19年に比べ20年で発表の機会が増加した。

3. 授業での経験

18. 授業中に学生同士が議論をする

4 : ひんぱんにあった 3 : ときどきあった 2 : あまりなかった 1 : まったくなかった



n = 4776

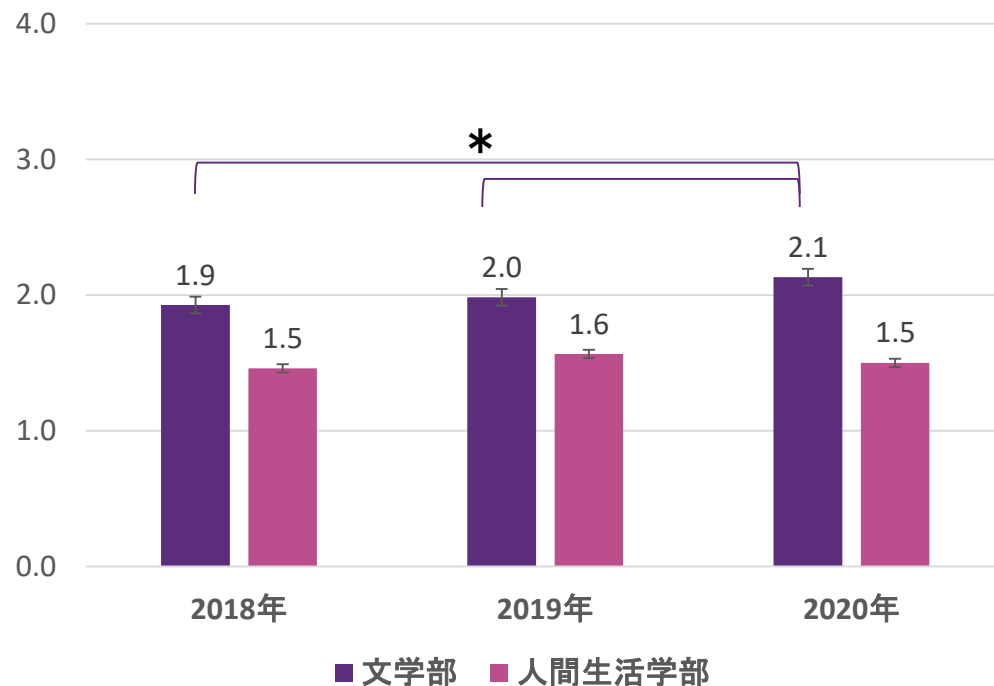
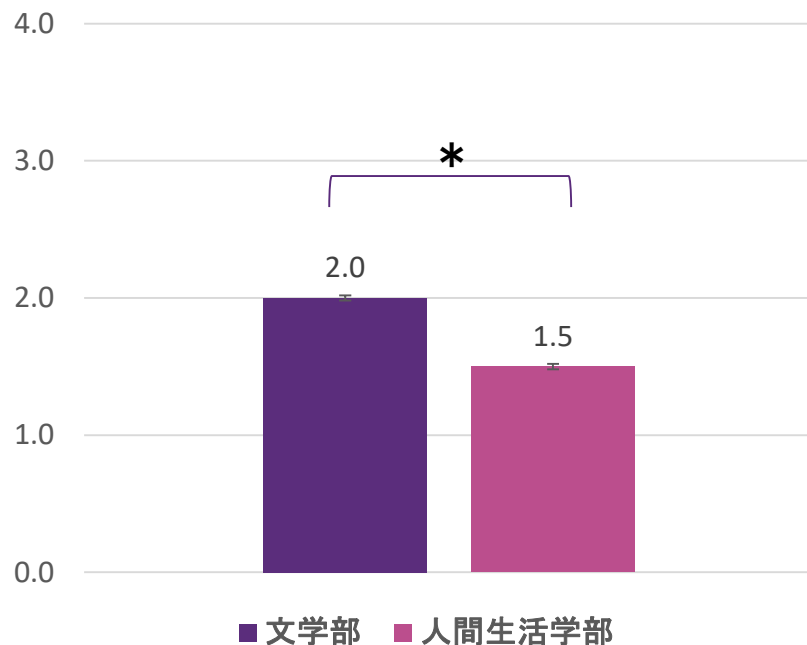
* $P < 0.05$

授業中に学生同士が議論する機会は、文学部のほうが人間生活学部より多かった。年度別では人間生活学部で、2018年、19年に比べ2020年で議論の機会が増加した。

3. 授業での経験

19. 取りたい授業を履修登録できなかった

4 : ひんぱんにあった 3 : ときどきあった 2 : あまりなかった 1 : まったくなかった



n = 4776

* $P < 0.05$

あまりなかったという程度ではあるが、文学部では、人間生活学部より取りたい科目を履修できないと感じる学生が多かった。また、文学部では2018年、19年に比べ20年で取りたい科目を履修できないと感じた学生が増加した。

まとめ1

2020年度と2018-19年度の違い

2020年に	上昇したもの	上
	変化がなかったもの	同
	下降したもの	下

項目	文学部	人間生活学部
1. 授業課題のために図書館の資料を利用した	下	下
2. 授業課題のために Web上の情報を利用した	上	上
3. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	下	同
4. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした	下	下
5. 教員に親近感を感じた	下	上
6. 授業や実験に出る	下	下
7. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	上	上
8. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	上	
9. 部活動や同好会に参加する	下	下
10. 大学外でアルバイトや仕事をする	下	下
11. 読書をする	同	同
12. 個人的な趣味活動をする	下	同
13. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	下	
14. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	同	下
15. 授業の一環でボランティア活動をする	下	下
16. 学生自身が文献や資料を調べる	下	上
17. 学生が自分の考えや研究を発表する	同	上
18. 授業中に学生同士が議論をする	同	上
19. 取りたい授業を履修登録できなかった	上	同

今回の解析は、新型コロナウイルス感染症が流行する中、2020年度の非対面授業下における学修時間・学修行動を把握することを目的に行いました。その結果、前項のまとめ1に示したように、両学部がそろって上下したものはほぼ予想された結果が得られたと思います。一方、学部による違いが出たものについては、両学の授業形態の違いなどが浮き彫りにされているようです。2020年度は、文学部において教員に対する親密感が落ちたり文献・資料を調べる機会が減ったり、取りたい授業を履修できなかつたりするなど文学部教育の強みの部分に影響を受けておりました。文学部では、これまで通りの対面による思考を重んじる授業に重点を置いてLMS等を補助的かつ効果的に使う考え方が良いようです。一方、人間生活学部では教員に対する親密感や文献・資料を調べる機会が上昇し、自分の考えを述べたり議論したりする機会も増え、これまでの人間生活学部教育の弱点が補われたようです。人間生活学部では、これまでの資格取得を目的とした対面授業の中に、LMS等を使った非対面授業を積極的かつ効果的に組み合わせる等の取り組みが今後望まれます。